官製談合事件渦中の「つり橋」

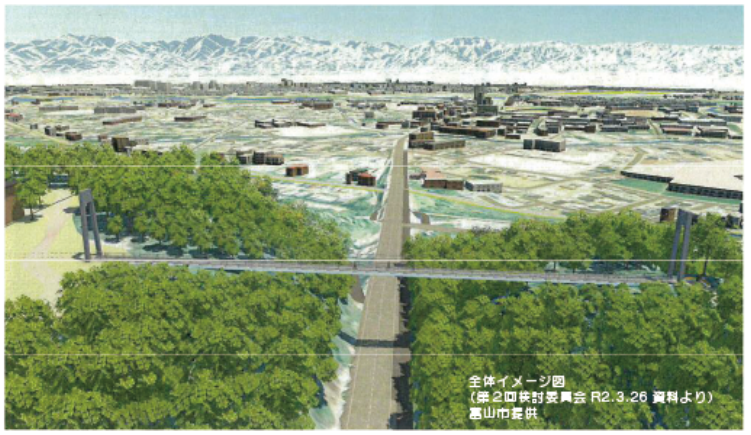
何ごともなかったかのように進めていいのか

一度、立ちどまって検証を

一般質問と反対討論で　赤星・吉田市議が呼びかけ

吉田市議（補正予算案）と赤星市議（新年度予算案）は反対討論で、官製談合事件の渦中にある呉羽丘陵の「つり橋」建設について「一度、立ち止まって、経緯を精査、検証すべきだ」と主張。その上で「本当に必要で、無理のない施設整備へ仕切り直しを」と提起しました。

【オモテ面の「経緯と問題点」参照】



全体イメージ図
（第2回検討委員会 R2.3.26 資料より）
富山市提供

「立山あおぐ特等席。」と言うが…？

このような「つり橋」は上から降りてきたもの

赤星市議は、ホテル跡地を所有する企業が「連絡橋の建設を」と市に要望し、匿名で2億円を寄付。市が土地開発公社を通して土地を3億円で買い取り、土地所有者と同じ人が代表の建設会社が橋梁の本体工事をJV（共同事業体）で約14億円で請け負っているという流れから、ホテル跡地にスムーズに取り付く位置にかかる大きなつり橋にする必要があった。そのために約2万5千㎡もの土地を買わされたのではないか、と疑問を投げかけました。

吉田市議は、地元・呉羽地区の有力者や地域のことに詳しい方々は、「橋があったらいいねという話は以前からあったが、124メートル、幅1・8メートルのつり橋は、地元は求めていない。計画は上から降りてきたもの」と言っていると紹介しました。

問題の核心は何か

この事業の全経過、官製談合事件がなぜ起こったのか。結局、森前市長の任期中にどうしても起工式をという「付度」がはたらいたなど疑念がぬぐえないと指摘。その過程の中で官製談合事件が起こったのではないかと、今回の不祥事の核心に迫りました。

↑吉田議員の討論動画
7分52秒から登場

「官製談合」事件とは―

「呉羽丘陵フットパス連絡橋」の設計業務委託入札をめぐり秘密情報とされている事項を業者に漏らしたとして、富山市の建設部長（当時）が官製談合防止法違反の容疑で、受注側の東京の建設コンサル会社とデザイン事務所の社員2人が公競売入札妨害の疑いで、1月24日逮捕された。

3人は2月14日、フットパスの「周辺広場整備」に関する業務委託契約でも同様の不正を働いていたとして再逮捕され、3月8日起訴された。捜査は継続中。

【一般質問】おもなやりとり

赤星市議　第1回「検討委員会」で連絡橋のAからEの5つのルート案が示されたが、「現フットパスや五福新道に接続しやすい位置に橋長50m級の架橋を行う」約1億円のBルート案ではなく、「富山観光ホテル跡地にスムーズに取り付く位置に橋長100メートル級の架橋を行う」約2・2億円のAルート案が予め選定されていたのではないか？

三浦副市長　あくまでも複数案を比較検討していただくためにメリット、デメリットを説明する目的で整理された資料であり、あらかじめ選定されていたものではない。

赤星　Aルート案は最初の橋長100m級の吊り橋2・2億円から124m12億円まで（今回補正でさらに14・3億円に）巨大になったのはなぜか。

副市長　平成28年に閉館したホテル跡地を当時所有していた企業から事業化に向けて協力したい旨の申し出があったため、平成30年度から検討を始め、検討委で選定されたルート案をもとに地形条件などを考慮し詳細な架橋位置を決定した結果、124mの吊り橋となった。

新たなランドマークとなるシンボリックなものであること、落雪防止のための融雪ヒーター設置、落下物防止のため橋の両側に張出し部を設けるなどの対策を講じることとなり、詳細な設計を行ったところ12億円となった。

赤星　ホテル跡地所有企業の「協力」とは具体的に何か。

副市長　呉羽丘陵活性化推進のために土地所有者として貢献することと。

赤星　その企業の代表と同じ人が経営する建設会社が（JVで）連絡橋整備工事を受注しているが？

副市長　一般競争入札で事業者を決定し議会の議決を経て本契約した、問題ない。

藤井市長

つり橋の設計に問題はない　工事は計画どおり進める

赤星・吉田市議は、つり橋について、官製談合事件の渦中にあり、経過に不自然さ、安全性にも懸念がある。一度立ち止まって検証せよと求めました。

藤井市長は、「橋梁の設計には問題はない。完成へ着実に工事をすすめる」と答弁しました。

市議会は今こそチェック機能を果たせ

吉田市議は、「橋梁の立体図と平面図を入手し、全体像が明確にわかった。この資料は議会に出されていない。多くの議員は全体像を詳細に知らないで〝夢のつり橋〟〝立山あおぐ特等席〟などと推進してきたのではないか。官製談合事件の渦中の事業をこのまますすめていいのか。市議会が今こそ、チェック機能を果たそう。党派の違いを超えて『立ち止まって検証せよ』の一点で、市長に求めようではないか」とすべての議員に呼びかけました。

安全性は大丈夫か

「つり橋」の真下に、急傾斜地崩壊「特別警戒区域」

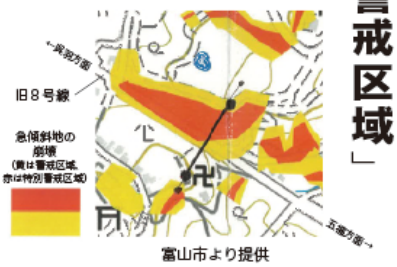
吉田市議は一般質問で「安全性は大丈夫か」と質問。つり橋の建設予定地の真下に、急傾斜地の崩壊「特別警戒区域」があると指摘。

吉田市議はこの間、権威ある地質学者に面談して安全性と対策について意見を聴き、「呉羽山、特に城山側の地層は弱い。そこに大規模な構造物を造るときは、工事中も完成以降も監視と調査、対策が必要」との見解を紹介し、崩壊対策は万全かと問いました。

「特段の対策は必要ない」

三浦良平副市長は、呉羽山側に特別警戒区域があることは認めましたが、「県富山土木センターと協議した結果、特段の対策を講じる必要はないとの結論であった」と答弁しました。

また、吉田市議は、富山は落雷の多さは全国4位、下を走る県道は暴風の通り道だと指摘。落雪、風等の安全対策についても納得できる答弁はありませんでした。



富山市より提供

ご意見・ご要望・情報をお寄せください。　富山市議会 日本共産党　TEL 076-443-2156　FAX 076-441-8418
メール jcp.toyashigi@kyosan.jp